

言祝ことほぎの美

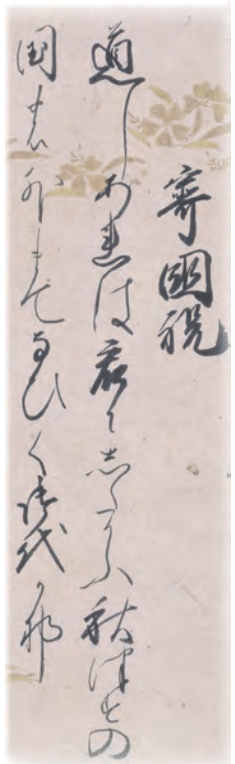
—— 寺宝でつづる吉祥

I期 二〇一九年 四月六日(土) ～ 六月二十三日(日)

II期 二〇一九年 七月六日(土) ～ 九月十六日(月・祝)

◎ 相国寺承天閣美術館





1 足利義政 百首和歌 一卷

室町時代 慈照寺蔵(部分)

寄国祝

道しあれば 君にしたかふ 秋津すの

国の外まで なひく御代かな

概要

ことほぎとは、言葉で祝うことを意味します。言葉には現実をあやつる力があるという「言霊(ことだま)」思想が古来からあり、そこから和歌や物語が生まれ、日本文化を彩ってきました。さらに言葉であらわされたモノが、絵画化、意匠化され、多くの美術工芸品として今に伝わっております。

また、よろこびを言葉にのせてたたえること、これは、私たちの人生の節目に欠かせないものです。新年を祝い、結婚を祝い、長寿を祝う。これらは、儀式となつて様々な工芸品を生み出しました。

祈りもまた、ことほぎの聖性を象徴する行為です。神や仏にささげる祈りは、宗教芸術として結実し、寺社空間を荘厳してきました。

新たな天皇の御代をことほぐこの年、相国寺承天閣美術館では皇室ゆかりの宝物をとりまぜ、相国寺、金閣、銀閣の名品で祝いの展示をいたします。

見どころ

見どころ1

皇室ゆかりの品がずらり

京都御所の北に位置する相国寺。塔頭の慈照院が桂宮家の菩提所であるなど、皇室との縁は深く、寺宝からもその関係がしのべれます。新たな天皇の即位を祝い、江戸時代の後水尾天皇の宸翰と伝えられる書や、桃園天皇の皇后、恭禮門院の御所を移築した開山堂の襖絵(円山応挙・応瑞筆)など、皇室ゆかりの名宝をご覧ください。

見どころ2

初公開の伝来の名宝

江戸時代の相国寺の宝物目録では、筆頭に挙げられていた、後小松天皇宸翰叢林秘事。後小松天皇(一三七七〜一四三三)は相国寺が創建された時に在位していた天皇であり、その縁の品を有していることは、相国寺にとって重要なことでした。この叢林秘事は美術館でこれまで展示されることはありませんでしたが、今回は江戸時代になってからの写本を含め、関連の資料を一挙公開いたします。

また、輪郭線が法華経の経文の文字によって描かれている、文字絵の大作、加藤信清(一七三四〜一八一〇)の「法華経観音像」も美術館では初公開です。

一章 言の葉を描く

遠い異国や古き貴族の物語など、文字で残された情景を我々は絵画として視覚化し、楽しんできました。

言葉から生まれた雅な世界を皇室ゆかりの品、そして皇族を主役とした物語で綴ります。



2 郭子儀兒孫遊嬉図屏風

六曲一双
江戸時代
相国寺蔵

堂宇の中心に坐る白髯をたくわえた人物が郭子儀（六九七〜七八一）。中国・唐時代の名将で玄宗皇帝以後四代の皇帝に仕え治世を支えた。子供は八子七婿皆栄え、数え切れぬほどの孫に恵まれた。本屏風は天明八年（一七八八）、公遵法親王（こうじゅん一七二二〜一七八八）の命により相国寺にもたらされた。



3 源氏物語図屏風

狩野常信筆
六曲一双
江戸時代
相国寺蔵
(右隻)

約千年前、平安時代の紫式部によって紡がれた長編小説『源氏物語』を江戸時代の狩野常信（一六三六〜一七二三）が絵画化したもの。描かれているのは二十三帖「初音」における新年を迎えた光源氏の屋敷での一場面。屋外では長寿を願い、若松を引く童女が描かれている。



4 源氏夕顔蒔絵手箱 重要文化財

一合 室町時代 相国寺蔵

※I期展示

手箱とは、手まわりの化粧道具などを入れておく小型の箱。蓋表は『源氏物語』に取材した図柄で、夏に夕顔の花が咲く松垣のもとで桐壺帝の皇子、光源氏と夕顔との恋が始まる場面。人物が描かれない留守模様で、牛車に光源氏が暗示されている。



5 色絵龍田川透かし鉢 尾形乾山作

一口 江戸時代 慈照寺蔵

※II期展示

江戸時代の陶工、尾形乾山（一六六三〜一七四三）の鉢。流水と紅葉の取り合わせは、紅葉の名所で歌枕として名高い龍田川を示す。王朝文化を意匠化した、大胆な作品。

二章 祝いの調度

人生の節目に訪れる特別なハレの日。

天皇の御即位や婚礼などは儀礼化されて大々的に祝われます。

また天皇の書、宸翰は江戸時代の相国寺において特別な時に拝することができるものであり、あわせてご覧いただけます。



6 御即位図屏風

六曲一隻

江戸時代

相国寺蔵

江戸時代の天皇の即位礼の儀式を描いた屏風。皇位を継承したことを天下万民に公示する儀式で、紫宸殿の南庭の様子が描かれている。神聖な儀礼空間ではあるが、一般の見物客の姿も描き込まれている。



7 七難七福図巻 円山応挙筆

重要文化財

三巻のうち福寿巻

江戸時代

(明和五年・一七六八)

相国寺蔵

円山応挙(一七三三〜九五)が三十三才頃から三年かけて明和五(一七六八)年に完成させた作品。この絵巻の構想は近江(滋賀県)園城寺の円満院門跡、祐常(ゆうじょう)一七三三〜七三)法親王によって企画された。『仁王経法』の經典内に描かれた「福」について、現実の事柄に即して描いた福寿巻には、公家屋敷で祝宴が催されるさまが描かれる。



8 亀甲花菱文橘蒔絵大名婚礼調度

一揃

江戸時代

相国寺蔵

江戸時代、婚姻に際して嫁として嫁ぐ武家の息女が嫁ぎ先へ持参した嫁入り道具。亀甲花菱文と橘文が同じ技法で施されている。画像はその一部、櫛台とその引きだしにおさめられていた道具である。

三章 祈りの美

仏教の神髄を今に伝える経典。

その文字は装飾により輝きを増して今に伝えられています。

寺院空間を構成する様々なものたちも、皇室をはじめ多くの人々の寄進したものです。

祈りが結実した荘嚴の美をご覧ください。



9 法華経観音像 加藤栄三信清筆

一幅

江戸時代

相国寺蔵

※I期展示

文字絵の名手、加藤信清（一七三四～一八一〇）が描いた白衣観音像。輪郭線が法華経の普門品第二十五、観音経の経文の文字によって描かれている大作。



10 後水尾天皇宸翰 寶篋印陀羅尼経

重要美術品

一卷

江戸時代

相国寺蔵

※II期展示



水晶の軸で金銀砂子の装飾経。

後水尾天皇は、相国寺の大寶塔に寶篋印陀羅尼経を奉納した記録が残る。

この大寶塔は後水尾院勅営で明暦（一六五六）

年六月十六日に落慶供養され、寶篋印陀羅尼

経ほか、後水尾院の落飾御剃髪・玉齒などが

内納された。

【開催期間】 I期 2019年 4月6日(土) ～ 6月23日(日)

II期 2019年 7月6日(土) ～ 9月16日(月・祝)

【開催時間】 10時～17時(入館は16時30分まで)

【休館日】 会期中無休

【拝観料】 一般800円(65歳以上・大学生600円 中学生300円 小学生200円)

※一般の方に限り、20名様以上は団体割引で各700円

【主催】 相国寺承天閣美術館 日本経済新聞社

【協賛】 一般財団法人 萬年会

【協力】 MBS

【関連イベント】

・講座 14:00～

「皇室と相国寺」本多潤子(当館学芸員)
2019年 5月4日(土)

・ギャラリートーク 14:00～ 担当:本多潤子
2019年 6月1日(土)

9月7日(土)

【アクセス】

▼JR京都駅より

京都市営地下鉄今出川駅下車
3番出口から徒歩8分

▼阪急電車烏丸駅より
京都市営地下鉄今出川駅下車
3番出口から徒歩8分

▼京阪電車出町柳駅3番出口より
徒歩20分、または市バス

市バス59・201・203号系
統同志社前下車 徒歩6分

市バス102号系統(洛バス)烏丸
今出川下車 徒歩8分



相国寺承天閣美術館 SHOKOKUJI JOTENKAKU MUSEUM

〒602-0898 京都市上京区今出川通烏丸東入ル

TEL 075(241)0423 <http://www.shokoku-ji.jp/>

【作品クレジット】

- 1: 足利義政 百首和歌 一巻 室町時代 慈照寺蔵(部分 後期展示)
- 2: 郭子儀兒孫遊嬉図屏風 六曲一双 江戸時代 相国寺蔵
- 3: 源氏物語図屏風 狩野常信筆 六曲一双 相国寺蔵 (右隻)
- 4: 源氏夕顔時絵手箱 一口 重要文化財 室町時代 相国寺蔵
- 5: 色絵龍田川透かし鉢 一口 尾形乾山造 江戸時代 慈照寺蔵
- 6: 御即位図屏風 六曲一双 江戸時代 相国寺蔵
- 7: 七難七福図巻 円山応挙筆 重要文化財 三巻のうち福寿巻
江戸時代(明和五年・一七六八) 相国寺蔵
- 8: 亀甲花菱文橘蒔絵大名婚礼調度 一揃 江戸時代 相国寺蔵(部分)
- 9: 法華経観音像 加藤栄三信清筆 一幅 江戸時代 相国寺蔵
- 10: 後水尾天皇宸翰 寶篋印陀羅尼經 重要美術品 一巻 相国寺蔵

【詳細・画像使用お問い合わせ先】

担当: 本多潤子

TEL: 075(241)0423

FAX: 075(212)3585

Email: joten-info@shokoku-ji.jp

